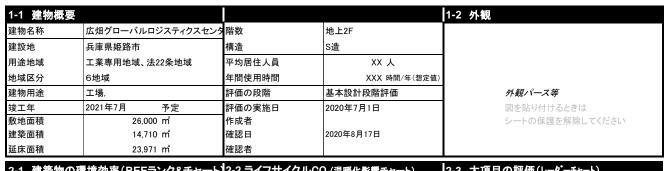
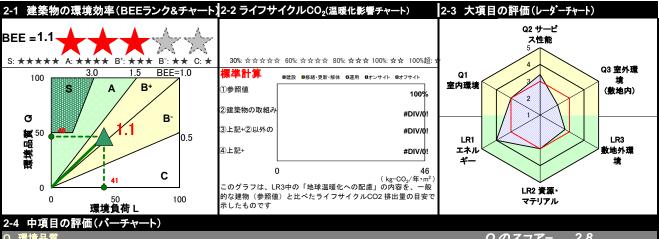
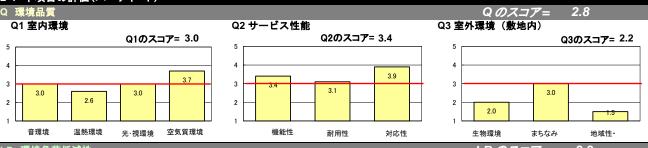
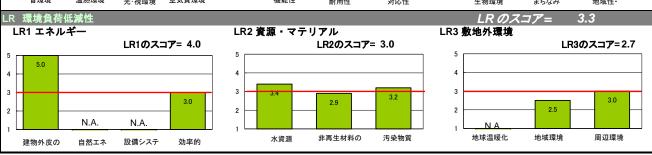
## **RFE**-建築(新築) ▮評価結果

·建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)









3 設計上の配慮事項		
		その他
開口部の設置を最低限とし、熱負荷の低減と快適性の確保の両立をはかった。		0
I I		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
空気質環境に関して、告示対象外及びF☆☆☆材料をほ		建物周辺に緑化を配置し、敷地内温熱環境の向上に努め
ぼ全面的に使用している。	た、大空間化することで、フレキシビリティを確保してい	た。
	る。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
開口部の設置を最低限とした。	節水コマ、トイレに節水器具を採用。	オール電化とした。
	主要構造躯体のコンクリート基準強度を高くした。	普通車両、大型車両の駐車スペースに配慮した。
		十分な構内通路の確保により周辺交通に配慮した。

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- G: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LF: Load Reduction (建築物の環境負荷(底滅性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
  ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される